

Matsuri を日豪の未来の礎に

在シドニー日本総領事館総領事 竹若敬三氏インタビュー

Matsuri2018 を盛り上げるメンバーのオーストラリアにちなんだエピソードに迫り、Matsuri 運営の裏側をお伝えしていくインタビューコーナー。記念すべき第一弾は在シドニー日本総領事館総領事・竹若敬三氏。多様な駐在経験をもつ竹若氏には、オーストラリアならではのエピソードや、年々鮮やかな変化を遂げる日豪の交流関係について話を伺いました。

オーストラリアの日本愛の深さ

私が感じたオーストラリアの大きな特徴は、日本の文化に対する憧れや尊敬の強さです。日本文化に対するオーストラリア人の関心分野は大変広く、太鼓、書道、茶道、生花、盆栽、武道と多岐に渡ります。年配の方だけに人気があるというわけではなく、若者にはアニメやコスプレのファンも大変多く、シドニーで毎年開催される「SMASH!」というイベントには何万人もの人が来ます。今年はシドニーで一番大きい会場（ICC）で開催したほどの規模です。Matsuri は観光、アニメなどにとどまらず、日本の伝統文化や武道などバラエティに富んでいます。昨年は私が羽織袴を着て参加したら、一緒に写真を撮りたいと頼まれたりして、オーストラリア人が日本の伝統文化を親しんでいるということを感じました。日本文化は世代を超えて皆さんに愛されている、というのを感じます。昨年の Matsuri の来場者は約 5 万人でした。そこまでの規模の日本イベントはこれまで 35 年の外務省歴でも初めてでした。日本は年間約 50 万人ものオーストラリア人が観光に訪れ、今や最も人気の高い海外旅行先となっています。

日豪の絆は一朝一夕にならず、継続は力なり

オーストラリアに来て非常に印象的だったのは、人の交流の広さと深さです。ビジネスの関係で言うと、10月14日から16日まで Australia Japan Business Co-operation Committee（日豪経済合同委員会）会合がシドニーで開催されました。1963年から途絶えることなく継続され、今年で56回目になりました。日本からは三村明夫委員長を始め、232人もものトップレベルのビジネス関係者の方々がお越しください、オーストラリア人と合わせてその規模は450人強に及ぶ大きな会合でした。

そのような力強いビジネス関係に加えて、姉妹都市間の交流もとても深いです。日本とNSW州の間には姉妹都市関係が39もあります。その中でも最も古いのは1963年に始まったリズモア市と奈良県大和高田市です。その他にも30年以上の歴史をもつ姉妹都市関係が少なくありません。姉妹都市間ではホームステイの受け入れなどが行われます。日本の子供たちにとってオーストラリアでのファームステイや、

オーストラリアの子供たちにとって日本のホスピタリティに触れる経験はどちらも印象的だと思います。姉妹都市関係も 30 年も続くと日本でホストファミリーのお世話になった人がオーストラリアに帰ってきて日本人の受け入れをするなど、好循環が生まれています。「恩返しをしたい」という気持ちが芽生えるのかもしれませんが、日豪の絆は「継続は力なり」と言えます。

オーストラリアに来て見える日本の姿

私がオーストラリアに対して感謝していることは、逆説的かもしれませんが「日本のことを教えてくれた」ということです。海外に行くと日本について聞かれる機会や日本を外から見る機会が増えるからだと思います。オーストラリア人の中には、日本の歴史を非常によく勉強している人がいて驚かされます。オーストラリアでの食生活では、日本がどういう海産物を輸出入しているかも目に止まります。日本はマグロやエビを輸入していますが、オーストラリアはホタテを日本からたくさん輸入しています。今年は、日本産牛肉のオーストラリアへの輸出が再開されました。オーストラリア人は日本食に対してとても舌が肥えているので美味しさもちゃんと分かっています。食に限らず、ゲレンデの雪もパウダースノーにこだわりますし、オーストラリア人は何かと「本物志向」です。

日豪の共通点は、どちらも Absorber

シドニー周辺での日本の祭りとしては、12月のダーリングハーバーでの Matsuri Japan Festival が一番大規模ですが、他にも、6月にパラマツタで、9月にウィロビーで開催されています。また、今年は10月にキャンベルタウンで日本祭りがありましたし、さらに11月にはダーウィンで Japanese Culture Day 祭りが開催されます。どの祭りでも、多くの方々が協力して、皆で盛り上げているという熱意を感じます。

日本とオーストラリアの一つの共通点として外国に対する好奇心があると思います。オーストラリア人の中には自分たちのことを「absorber（吸収する者）」と言う人もいて、外国の文化や技術に対する関心の高さを感じます。中には日本に何回も旅行したことがあり、驚くほど日本の文化や地方のことをよく知っているオーストラリア人がいます。日本文化への関心の深さというのは、オーストラリアの多文化主義（マルチカルチュアリズム）に関係していると思います。オーストラリア人は約半数が海外で生まれているので、海外の文化に対する関心がもともと高いとも言えます。余談ですが、6月にリズモア市で奈良県大和高田市との姉妹都市関係55周年を祝う行事を開催したときに、大和高田市のご当地キャラクター「みくちゃん」が登場するとリズモアの市民に大人気でした。メルボルンでも熊本県のご当地キャラクター「くまもん」が登場したときは大反響だったと聞きます。地方とご当地キャラクターの掛け合わせはオーストラリアでかなりインパクトがあるようです。

Matsuri では日本の若者と一緒に楽しんでほしい

Matsuri は日本文化をみんなに知ってもらう、いわば発信の場です。しかも Matsuri は 5 万人もの来場者が来る非常に大きな舞台です。日本に対してオーストラリア人がもつ印象はますます良くなってきていると感じます。これは、オーストラリアの在留邦人の方々のおかげでもあります。シドニー周辺の在留邦人は約 3 万 2000 人で、そのうち半数は永住者の方々です。そういう方々との日常的な触れ合いなどから日本のイメージはよくなってきているのだと思います。総領事として様々な行事に出席していると、やはり他の国から日本は「律儀で真面目な国」と見られていると感じます。そういうイメージは、今まで日本人が築きあげてきた一種の財産だと思います。その財産を若い人に大切に引き継いでほしいと思っています。そういった意味でも Matsuri は若い世代と共に日本文化の元気の良さを伝える格好の場です。Matsuri に来てくださるオーストラリア人の方には、ぜひ日本の若い世代と一緒に元気いっぱい祭りを楽しんでほしいですね。